



Common Diseaseの 診療ガイドライン

横林賢一，渡邊隆将，齋木啓子 編

●B5・頁319 2017年3月

定価：本体4,600円＋税

[ISBN978-4-7581-1809-5]羊土社刊

時の流れに身をまかせ…というのはアジアの歌姫テレサ・テンの名曲であるが，日々の診療に身を任せていると刹那のうちに時は流れる．最近2カ月，3カ月の長期処方でも珍しくないで，患者さんと数回会ったらもう翌年，なんてこともざらである．そうこうするうちに，同じ処方ではや何年，処方は変わらずとも時代は着実に変わっていく．時代に追いつくために，せめて主たる診療ガイドラインだけでも目を通しておきたいと考えるのも医師であるなら当然である．昔と比べればこれらをめぐる環境は格段に改善されているので，意欲さえあればすぐに最新の診療ガイドラインに目を通すのはさほど難しいことではないはずである．意欲さえあれば．

ただ，日々の診療で出会う疾患の診療ガイドラインは，主要なものだけに限定してもかなりの数に及ぶ．ましてや，複数の国内外の診療ガイドラインに目を通し，それぞれ比較検討するなどということは，理論的には可能だが，強い意欲に満ち溢れていたとしてもなかなか難しい．少なくとも今の私には無理である．

しかし今回，横林賢一/渡邊隆将/齋木啓子先生の編集による本書「Common Diseaseの診療ガイドライン」の出版により，意欲減退気味の私でも一気に挽回する

ことができそうな気分になっている．本書が取り上げた項目はまず「急性上気道炎(かぜ)」，次が「インフルエンザ」である．これなら読む気が起きる．その後，喘息，COPD，高血圧，慢性心不全，と日々の診療で絶対に出会う疾患が続いている．そして最後には診療ガイドラインの評価の仕方とその使い方まで載っている．実に親切だ．各項目では，可能な限り複数の診療ガイドラインを比較したうえで，それらに基づいた診断・治療のアプローチが簡潔に記載されている．これだけでも十分お得感があるのだが，それに加え，「総合診療医の視点」と「Beyond the sea～海外のエビデンスから」という，診療ガイドラインを読み込んだうえでの臨床医目線の記述が加えられている．さらに診療ガイドラインや文献の入手先はすべて各項目の末尾に収載されているが，無料で入手可能かが一目でわかるように記載されている．これは便利である．このように本書はお得かつ有用であると同時に，実に臨床医目線の親切な本である．

本書は，最近外来診療に携わり始めた若手医師のみならず，診療ガイドラインに頼らずとも十分自信のあるベテラン医師にとっても今日からの外来診療に役立つ，診察室に備えるべき一冊である．